

# 仙林寺だより

NO. 41  
編集・発行  
松田正貴

## 行事報告

### 第三教区檀信徒研修会

一月二十九日、梁川町万休院を会場に檀信徒研修会が開催されました。坐禅の体験を軸に、毎年様々な分野から講師を迎え勉強しております。

今回の講師は、梁川町安禅寺檀徒岡崎安治様です。氏は郵便局長を長くお勤めになり、また退職されてからは特に仏教に深く帰依され、菩提寺の読経会、当山坐禅会の会員として、熱心に参禅しておられます。話は幼き日の父との別れ、母の思い出、良き本との出会い。人との出会い、現在の人格形成に至る軌跡を、短時間に性格通り几帳面にまとめておられました。

中でも永平寺の老師との会話「父のない子と後ろ指指されない様に行動を慎め」との母との思い出の言葉に対して、「あなたは今まで世間教という教えを信じてきた、今日からは仏道を信じて生きなさい」という言葉に本物の仏道を感じた。とお話にて心に心動かされました。正しい教えを頂くのには、真つ直ぐ受け入れる心が必要なようです。

永平寺の禅師様曰く、「人間はまさに心で修め体で実行。これが大本だ。黙って真理を実行する事は、何から始めるかと言うと、「只ひたすら坐る」心も体も無条件で黙って正しい誠を実行する大切さをお伝えです。

「誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり」。教えにかなった生活、誠の道「坐禅」を実践される岡崎様です。私も禅友として「一緒にできるご縁を頂いております。これからも共に精進「誠」の道を行って行ければ何より有り難いことです。

### 仙林寺檀信徒総会

三十日、総会並びに新年会を檀家総代・世話人の方々に出席頂き開催されました。平成十六年度決算報告、十七年度予算案が満場一致で可決されました。予算書にもございますが、今年も世話人様を通じて護持会費の納入をお願いする事となります。ご協力方宜しくお願い致します。

### 新世話人様ご紹介

齋藤 剛様(西町)

宜しくお願い致します。



### 保原町仏教会

保原町の寺院若手僧侶が結集しました。仏教の教えに違いはありません。宗派の垣根を超えて仏教の素晴らしさをお伝えしたい。思いを一つに手を携え活動して行く事となりました。会の名称は「保原大法螺会(おおぼらかい)」。芥川賞作家玄侑宗久師に命名頂きました。法螺を吹くとは、元々仏教用語で、仏様の教えが隅々にまで届くという意味で、お経の中にも「大法の螺を吹く」とあります。

地元に着した活動の展開を企画しております。記念すべき第一回目の行事「花まつり」を四月二十九日に行います。町内を練り歩くお稚児さんの

華やかな様子が目に浮かびます。ご支援・ご協力宜しくお願い致します。尚詳細は次号でお伝えします。

## ちよつと一言

### 「血脈」

二月十五日は、お釈迦様入滅、涅槃の日です。現在のご葬儀のしきたりに残る、末期の水「北枕」「四華花」等、それぞれお隠れになられた時の様子になぞらえ、今に残っております。

実は、お釈迦様が残されたのは習慣だけではありません。「自灯明、法灯明」という言葉があります。神や仏を崇め奉るのではなく、自らをそして正しい教えを抛り所にしなさい。それが、究極の救いにつながるのです。というお釈迦様からのメッセージです。只、「ここで注意を要するのは、「自ら」とは、よく整えられた自己の事、「教え」とはお釈迦様から連なる正しい教えの事を言います。とは言え心を整える方法も、正しい教えが果たして何なのかも、漠然と日暮らしを送るだけでは判りづらいものです。出家の僧侶には、二千年前の釈尊から現在に至るまでその血脈が一度も途切れることなく繋がっております。つまり、正しい教え、そしてその血筋をご縁ある皆様にお繋ぎする役目を頂いて居るわけです。現在では、葬儀に於いてその使命を果たす事となりますが、実は生前にご縁を繋ぐのがより良き結縁でございます。釈尊涅槃の日、ご仏縁を通して、皆様との良縁を結びたいものでございます。